

(別添)

世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	カンボジアにおける米作に向かない貧困地域での畜産業による収入獲得を目指すためのスキルアップ推進事業
(2) 実施団体名	一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
(3) 実施期間	2017 年 5 月 1 日～2018 年 1 月 31 日
(4) 実施国	カンボジア
(5) 活動地域	バタンバン州モールセイ群モーン地区ポップイ村
(6) 活動概要 ①活動の背景： 地雷原であるバタンバン州モールセイ郡モーン地区ポップイ村において子どもの教育を強く願う村人たちから、学校校舎建設が依頼され、CMC（当団体）として地雷撤去作業と並行して小学校建設プロジェクトを行い 2004 年 7 月に落成し、子どもたちの教育環境を向上させる事ができた。 ポップイ村は、これまで幾度となく干ばつや洪水被害に見舞われており、主要産物である米の収穫高が上がらないため、他の地方村と比べても圧倒的に貧しい。CMC では、村人たちの生活向上のため、貯水池の増設やカンボジア政府農業局と連携して農業トレーニングなどを実施し、学校には 4 万リットルの貯水タンク建設等の事業を行って来たがそれでも依然厳しい状況は続いている。 そこで生活向上の為に 2016 年 11 月より、畜産（牧牛の育成および養豚）スキル向上プロジェクトをスタートさせた。 ②活動の目標： ①貧しい村人たちにとってサステイナブルな収入獲得手段となる事 ②貧しい村人たちが協力し合いながら村全体が少しでも豊かになって行くこと ③当団体が実施する他の支援活動（学校建設や貯水タンク設置等）と結びつきながら、受益者（ポップイ村の人々）の QOL 向上につながることで、である。	

2. 業務実施結果：

（１）実施した内容

【実施内容①】

村ミーティング

活動するにあたり、問題となったことは村としての一体感がないことと感じた。そこで、村ミーティングを開くことにより、今回の活動の意義を伝えるとともに村として協力体制を築く必要性を訴えた。

【実施内容②】

予算講習

講師として招聘した EPDO の Khy 氏（畜産指導者・金融機関の勤務経験もある）の提案によりとりわけ貯金をする文化が根付いていないこの村では畜産指導の前にお金の管理等の予備知識が必要との意見だった。この基本的知識がないと、餌代の管理、飼育した牛・豚の利益管理、そして牛・豚の病気等による不測の事態の費用対策に繋がらないとの理由から畜産講習の前に予算講習を取り入れた。

【実施内容③】

畜産講習

多くの講師を招へいし、畜産指導を行った。この村では、最適な育て方を勉強せずに飼育していたため、誤った育て方をしていた。

（２）実施成果：

村ミーティング 4 月（3 回）5 月（2 回）

実施したことにより、村としての一体感が出てきた。土地の仕切りなどがあいまいにされているため、多々土地の争いが起こるが、ミーティングを行ったことにより、そのあたりが減った。

米が主な産業であるが、田植えや稲刈りなど人手がいるときに、協力できていない。隣の農家を助けるなどの活動もこれから必要であるとの頼もしい意見が出たのは良かった。

干ばつや洪水など自然災害が多い地域であるため、より一体感をださこういった自然災害も乗り越えられる関係性が必要である事を村人が理解しなければならないと感じてはいたが、村長を中心に活動の意義と協力体制の構築が必要な事を伝える事ができた。

村ミーティングで決まった事は下記の通りとなった。

- ・養豚への知識・技術を高めてから始める
- ・牛・豚が子供を産んだら計画的に販売を行い村全体の資産とする。

予算講習 5 月（3 回）

講師として招聘した EPDO の Khy 氏は日本で養豚を学んだ経験もある畜産指導者で金融機関に勤務した経験もあった。彼からの提案では畜産指導の前にお金の管理等の予備知識が必要との意見だった。この基本的知識がないと、餌代の管理、飼育した牛・豚の利益管理、そして牛・豚の病気等による不測の事態の費用対策に繋がら

ないとの理由からだった。そこで 5 月講習前半で彼には貯蓄の重要性を説いてもらった。カンボジアではもともと貯金をする習慣がない。銀行を信用する人も大変少ない。そこで、少しでも貯蓄が集まった人は金などの宝石に変える。お金に困った時、それを売るのが一般的になっている。現在農業が主な収入源だが、畜産を行いプラスの収入を得る事で貯蓄が習慣となればそのことが村人たちのＱＯＬ向上につながる。

畜産講習

5 月（7 回）

畜産に関する基礎知識を村人たちへ時間をかけてレクチャーが行われた。この段階ではまだ専門的指導ではなくあくまでも村人への動機づけを主な目的とした指導となった。

6 月（10 回）

今月の指導の中心は牛・豚のヘルスケアを中心に行われた。牛・豚かかりやすい病気や衛生面を整えないとかかる病気などさまざまな種類の病気やその応急措置方法などの指導が行われた。また深刻な症状の場合は獣医に連絡し他の家畜とは一旦隔離するなど、かなり専門的知識に及ぶ指導が行われた。

7 月（10 回）

村人たちはこれまで家畜をどんな種類であれ放し飼いにするのが常だった。今月は家畜の管理方法と衛生指導が行われた。特に豚は衛生的な環境でなければすぐに病気になりやすい性質であるため、衛生的な環境を維持するための方法（糞尿の始末方法や豚小屋の維持管理法等）の指導については重点的に行われた。

8 月（10 回）

先月に引き続き家畜の衛生管理指導が行われた。これまで池の水たまりを家畜の飲み水と考えていた村人たちに対して、水がいかに重要であるかを理解してもらう為の指導が行われた。牛・豚の水場の確保の方法と、確保した水を頻繁に与える方法の指導が重点的に行われた。

9 月（10 回）

今月は家畜用飼料に関する指導が行われた。これまで村人たちは家畜の種類に関わらず人間の食べ残しを餌として与えるのが常だったが、それが畜産においては大きな間違いである事を理解してもらう為の指導が中心となった。理解がある程度進んだところで飼料を作る知識と実践指導がおこなわれた。

10 月（10 回）

今後養豚を行うにあたり、複数頭同時に生まれる子豚の管理方法の指導が行われた。村人たちがその他の家畜同様放し飼いの状態にならないよう、生まれた子豚は親豚と隔離する必要がある事を学び、子豚専用の小屋の設置方法や、子豚を健全に育成できる環境づくりの方法や育成方法などの指導が行われた。

11 月（10 回）

養牛に関する指導が行われた。カンボジアでは放牧による育て方が一般的ではあるが、牛を新鮮な雑草の場所へ誘導して食べさせる方法の指導が行われた。幼牛の育成方法については、畜産で利益を生むポイントである為生まれた時点から生後 6 か月までの育成方法の指導が行われた。

12 月（10 回）

今月前半では、牛への水の与え方に関する指導が行われ、なぜ人間が調理等で使用した水を与えてはいけないか等科学的見地に基づく指導が行われた。後半では害虫による牛への被害を防ぐため（特に蚊）の蚊帳の設置方の指導が行われた。

1 月（10 回）

今月は 5 月～12 月までのおさらいの意味を含めて、Khy 氏によってダイジェスト的にまとめ指導をおこなった。まだスタートしたばかりだが、購入した豚・牛はボップイ村に届けられ、畜産を行うスタート台にようやく立つことができた。

（３）得られた教訓など：

畜産指導を行ったという結果だけでなく、村人たちに責任感と一体感が生まれた事はとても良い事だった。村全体でミーティングを行うことの重要性を再認識させられた。今回は講師から予算管理・貯蓄の指導が必要である事を指摘されその事を痛感した。

そして、畜産指導では特に衛生面でのケアがより多く必要であると感じた。村人たち自身の衛生管理に対する基礎知識が不足していた事が理解できた。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

本プロジェクトを順調に遂行する事で多頭数による繁殖が可能となる。2018 年 1 月の時点では畜産により収益を得るためのベースが完成したに過ぎない。村人たちが本格的に利益享受の恩恵を得られるのはこの時点以降となるため、今後の状況も引き続き見守って行く必要がある。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

（１）活動中のエピソード・感想など

会合を行うと、村人が積極的に参加意欲を出していた。そして集会を行ってからは自分たちから多く集まるようになった。今まで集って何かを話し合う機会がなかったが、このプロジェクトを機にこの村に一体感が生まれ活動してくれるようになるとうれしい。

情報の供給をもっと広げることで多くのメリットを得ることができると思う。現状としては、家畜のみの衛生面を整えるが、家庭での衛生面まで発展すると病気などが減ると考えられる。

このプロジェクトをもとに小さな変化でいいが、総合的なＱＯＬが向上する事を期待する。

（２）活動の写真

村長との事前ミーティング
概要の説明



プロジェクト責任者
村長の Pen Sam 氏



第１回タウンミーティング
約 50 人参加



タウンミーティングの様子 2



情報伝達員の 4 名

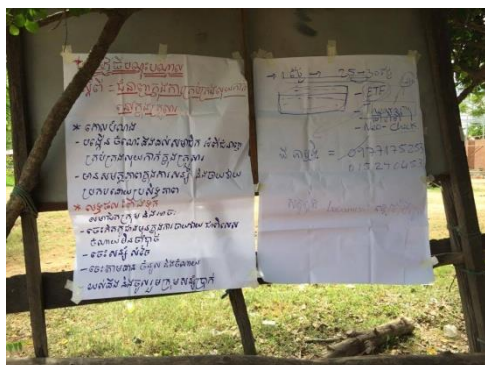
(指導に参加出来なかった村人への伝達役)



EPDO の Khy Phear ith 氏招へい 予算管理・貯蓄の方法を講習



予算管理・貯蓄の指導に使用 されたレジメ



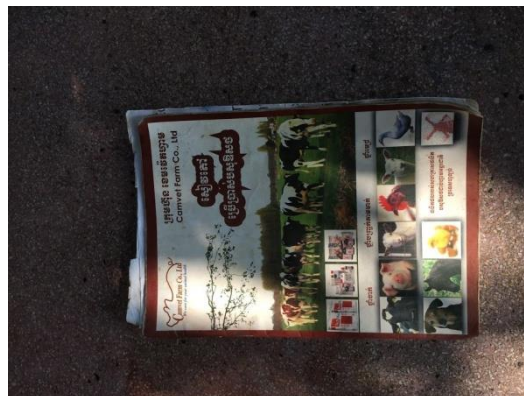
畜産の基礎知識を学ぶ様子



獣医の Khorn Sovna 氏を招へい 病気になった時の対処法を授業



左記講義の教本



養豚用のサプリメントの
使用方法を学んだ



カルシウムを補うために食事
に入るとよいとされている



養豚用サプリメント
これら全てについて学んだ



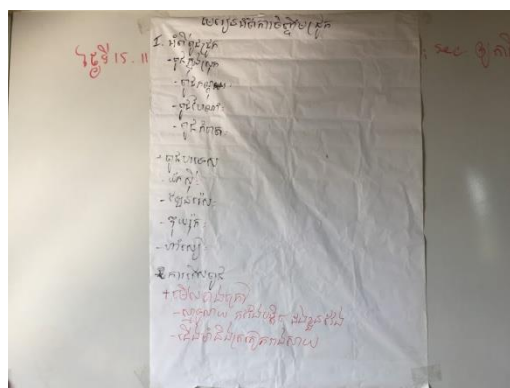
畜産指導として Nga Channy 氏を招聘
豚の飼料の与え方の指導の様子



参加者は真剣に受講しました



村人は講義で豚用飼料の
レシピを覚えた



豚の衛生管理方法について村人は知らなかったとの感想が多かった



Oun Rat 氏を招へいし、子豚の飼育環境造りを指導



購入した牛 1



購入した牛 2



購入した豚たち
これからが更に重要です

